

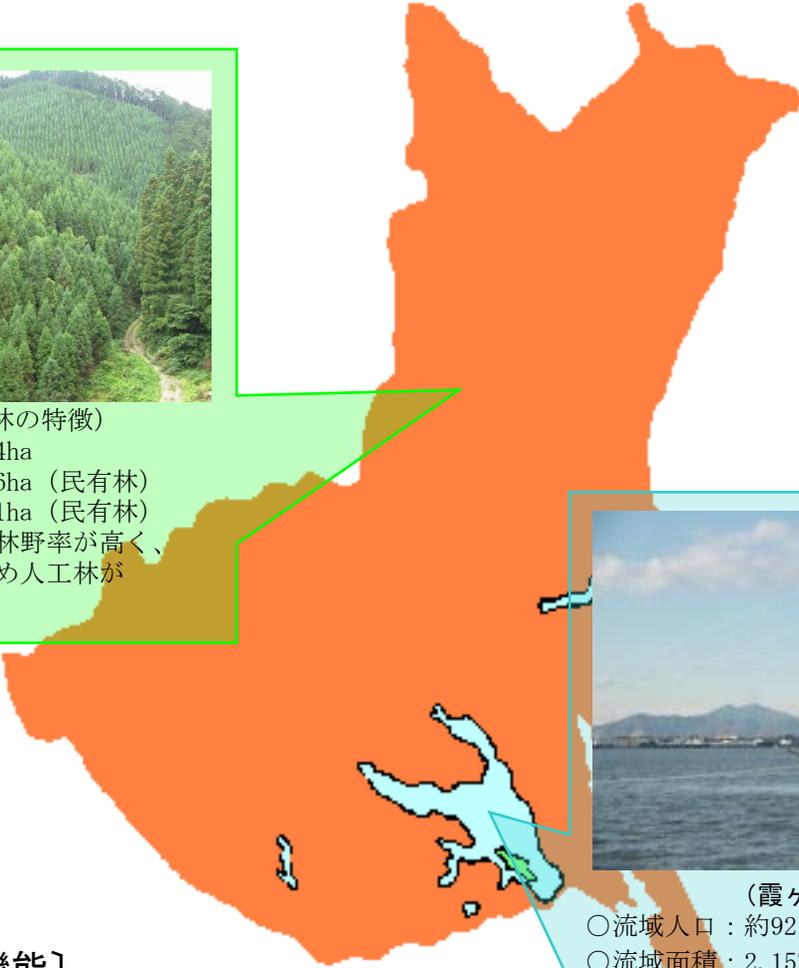
I 茨城県の自然環境の特徴(公益的機能)

○茨城県は、森林や霞ヶ浦をはじめとした湖沼・河川など多様で豊かな自然環境に恵まれている。
 ○これらの自然環境は、私たちの生活を支える公益的機能を有している。



(茨城県の森林の特徴)

- 森林面積 : 187,014ha
- 人工林面積 : 75,976ha (民有林)
- 平地林面積 : 37,641ha (民有林)
- 特に、県北地域は、林野率が高く、林業が盛んであるため人工林が多くなっています。



(霞ヶ浦の特徴)

- 流域人口 : 約92万人 (R6)
- 流域面積 : 2,157km² (県全体の約35%)
- 水道用水や工業用水、農業用水の供給など31市町村が関係しています。

〔森林の公益的機能〕

種類	主な内容
水源涵養	洪水緩和、水資源貯留、水量調節、水質浄化
土砂災害防止	土壌表面浸食防止、土砂流出防止、森林の生産力維持 等
土壌保全	
地球環境保全	二酸化炭素吸収、地球温暖化の防止 等
保健・レクリエーション	森林浴、キャンプなどの余暇の場 等
生物多様性保全	生物種及び生態系の保全
潮風害防止	潮風や飛砂による被害の防止

〔湖沼・河川の公益的機能〕

種類	主な内容
利水	水道用水や工業用水、農業用水など水資源の確保
水産資源育成	水産資源を育み固有の生態系を形成
親水	良好な景観、野外レクリエーションの場

II 森林湖沼環境税を活用した主な取組の実績

(令和4度～令和6年度)

森林保全のための取組

1 自立した林業経営による適切な森林の整備・管理

■林業経営体が実施する再造林、間伐等に対する支援

適切な森林整備と森林資源の循環利用を推進

○再造林: 456ha ○間伐: 1,380ha

■スマート林業の推進及び経営基盤強化

本県林業を牽引するトップランナーの育成を推進

○スマート林業に取り組む経営体: 9経営体

■建築物等の木造化・木質化

県産木材の需要を拡大するとともに、多くの県民が身近に木とふれあう機会を創出

○施設の木造化・木質化: 6件

■採種園の整備やコンテナ苗の生産に係る技術改良

再造林の推進に伴い供給増が求められている林業用苗木の安定供給を推進

○採種園整備面積: 0.35ha



皆伐後の再造林



間伐で健全となった森林



ドローンによる苗木運搬



活躍する高性能林業機械



建築物の木造化



コンテナ苗生産の技術改良

2 森林環境の保全

■海岸防災林における松くい虫の被害対策と広葉樹等の植栽

松くい虫による被害などにより荒廃が進んでいる海岸防災林の機能を強化

○植栽面積: 22ha

■森林・林業体験学習の実施

子どもたちが自然観察や体験活動に取り組む機会を創出し、森林環境教育を推進

○森林体験学習参加人数: 22,024人

■筑波山におけるブナの生育環境の整備

筑波山の貴重なブナ林の保護を推進

○ロープ柵設置延長: 777m

■第46回全国育樹祭の開催

継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、令和5年11月11日(土)・12日(日)に第46回全国育樹祭を開催



海岸防災林での植栽



松くい虫被害予防の薬剤散布



森林・林業体験学習



育樹祭お手入れ行事の様子



ブナ林保護対策



育樹祭お手入れ行事の様子

これらの取組の成果

- ・森林を整備することにより、大気中から約82,000炭素トンを吸収
⇒ 平均的な家庭が1年間に排出する炭素量の約81,000世帯分に相当
- ・森林整備による効果(公益的機能の観点から金額換算) ⇒ 約33億円に相当
- ・適切な森林管理に向けて、約21,000haの森林を集約化

霞ヶ浦等湖沼・河川の水質保全のための主な取組

1 生活排水等対策

■高度処理型浄化槽の設置等補助

通常の合併浄化槽より窒素・リンをより多く除去できる高度処理型浄化槽の設置、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に伴う撤去補助

- 高度処理型浄化槽設置補助件数： **約2,800基**
- 単独処理浄化槽の撤去費補助件数： **約2,600基**

■下水道・農業集落排水施設への接続補助

市町村が行う下水道等への接続支援に対する補助

- 下水道・農業集落排水施設接続補助件数： **約1,700件**



高度処理浄化槽の設置



下水道・農業集落排水施設への接続

2 農地・畜産対策

■良質堆肥広域流通促進事業

良質堆肥等を生産するための家畜排せつ物処理施設等の整備への補助や、堆肥の流域外流通等の取組支援

- 整備箇所数： **8か所**
- 堆肥施用面積： **約390ha**



流域外等農地への堆肥散布



堆肥舎

3 県民意識の醸成

■湖上体験学習の実施

県内小中学生を対象とした霞ヶ浦湖上体験学習の実施

- 湖上体験スクール参加人数： **約13,700人**

■漁場環境・生態系保全活動の支援

ヨシ帯の保全活動等を行う漁業者等の団体への支援

- 支援団体数： **5団体**



湖上体験スクール



ヨシ帯の保全活動

4 水辺環境の保全

■未利用魚の回収

未利用魚の回収による湖内からの窒素・リンの除去を実施

■アオコの発生抑制、回収等の対策

アオコの大発生による悪臭被害を防止するため、アオコ抑制等の対策を実施



未利用魚の回収



船による攪拌

これらの取組の成果

- ・森林湖沼環境税の導入後（H20～）、霞ヶ浦のCODは約7mg/L台まで低下
- ・流域から排出されるCODの汚濁負荷量を約158トン削減（R4～R6実績）
⇒平均的な家庭が1年間に排出する汚濁負荷量（COD）約22,700世帯分に相当

霞ヶ浦の水質状況（COD）

